

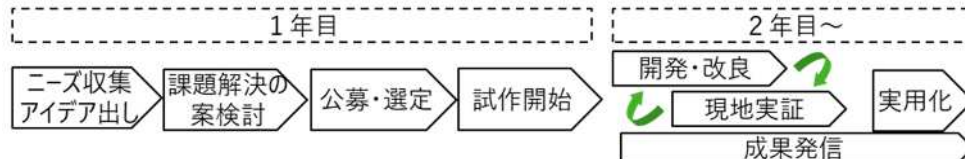
現場フィールド活用型イノベーション推進事業（愛知県）

背景及び目的

- ・令和3年度から「あいち農業イノベーションプロジェクト」で、農業総合試験場はスタートアップ企業等と連携して研究開発に取り組み、イノベーション創出を推進
- ・開発技術の社会実装に向け、現場に即した技術改良を行うための時間を要することが課題となる一方、生産性向上には農業分野以外の技術等を取り入れる取組の強化が不可欠

従来取り組んできた研究開発と並行し、**生産現場を起点とした取組**を実施

地域の実情に精通した県の普及指導員が、スタートアップ等と産地を結び、現場の「圃場」で既存技術の応用や機器の改良、アプリ開発などにより、課題解決に必要な新技術の迅速な導入を目指す。



実施体制

統括：農業経営課（普及・環境担当課長）

企画チーム：事業全体の企画・運営

農総試 普及戦略部（農業革新支援センター）
農業経営課（普及営農G・農業イノベーション推進室）

※事業推進の支援プログラム実施の委託業者含む

チーム長：農業経営課（普及・環境担当課長）
副チーム長：普及戦略部長（農業革新支援センター長）
運営・事務：農業経営課（一部委託）

農業改良普及課長

検討チームの進捗状況等の報告
※普及課長会議

テーマ別検討チーム

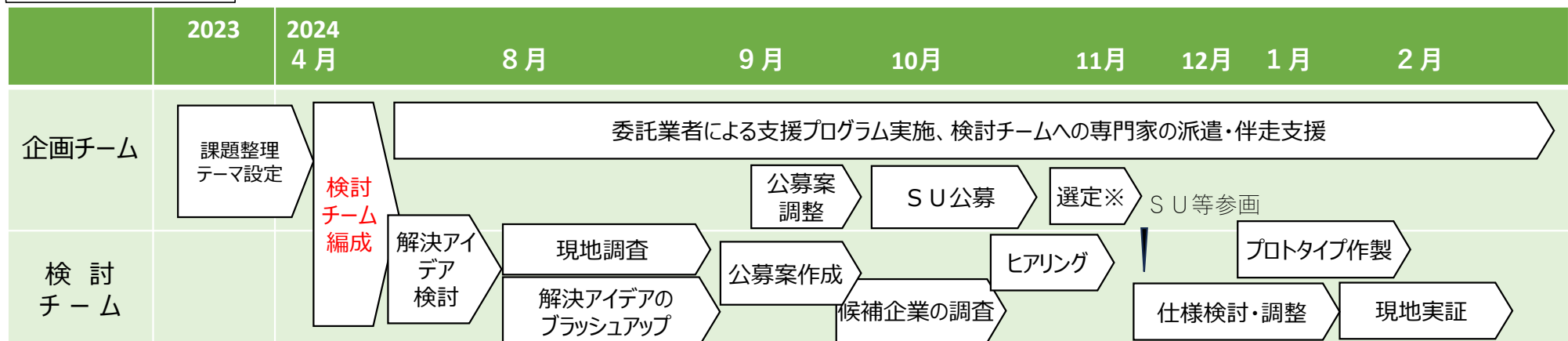
- ・テーマごとに検討チームを編成
- ・検討チームごとに企業や新技術に詳しい専門家による伴走支援
- ・検討チームごとに企業等と連携した開発

構成員

普及戦略部（農業革新支援センター）
農業改良普及課（普及指導センター）
農業総合試験場研究室、農業者、JA等

※スタートアップ（SU）等は、仕様検討時から参画

2024年 スケジュール



※選定委員：有識者及び普及指導センター長等

現場フィールド活用型イノベーション推進事業の事業イメージ（2024年～2026年度）

課題の洗い出しと事業プラン選定との実施

検討内容

- 「農家の困りごと」
- 「産地の困りごと」
- 「普及指導員の困りごと」
- ・多様な視点からの本県農業における課題の洗い出し
- ・DX等を用いた対策の検討
- ・改善事例の抽出



○課題(例)
環境モニタリング装置の活用
○対策
「環境の見える化」から
「栽培の改善提案」へ

○課題(例)
水田農業の病虫害防除
○対策
データ分析による適防除

○課題(例)
篤農家の技術継承
○対策
栽培技術のデータ化・見える化

- ①: 農業分野のDX/ CX精通したアドバイザー
(大学教授、コンサル等有識者)
- ②: 普及指導員(普及戦略部職員)
- ③: 伴走支援者(メンター)
- ④: スタートアップ等の専門家

スタートアップ等による技術の開発・改良

民間企業等との連携に向けた普及組織の仕組みづくり

※協同農業普及事業の実施に関する方針 第4 普及指導活動の方法に関する事項 6)

取組例 施設園芸高度化検討G



事業プランの 策定



事業プランに 必要なSU等の 公募



農業現場で農家とともに 実証・改良

機器・ソフト等を完成
(最短1年～最長3年)

スマホアプリ
仕様書



テーマの内容と事業参画企業

	テーマ	参画企業	提案内容
I	ハウス内環境と植物生長の見える化	IT企業（県内企業）	ハウス内の温度、湿度などの環境の変化が植物の生長に与えた影響を見える化し、栽培管理に活かすアプリの開発
II	IoTを活用したノンストレス樹体管理	IT企業（スタートアップ）	生育状況や栽培環境のデータから、高品質な果実生産を可能にするアプリの開発
III	イネカメムシを制するアラートシステム	農薬メーカー（県外企業）	イネカメムシの発生をAIによりリアルタイムに把握し、アラートを配信するシステムの開発
IV	IPM(農業に頼らない防除)技術を推進するアタッチメント	金属加工（県内企業）	花きの病気を防除するUV-Bランプについて、植物や施設の資材への影響を軽減するアタッチメントの開発
V	作業負荷を軽減するアタッチメント	金属加工（県内企業）	キュウリのつる下げ作業の省力化に寄与する器具の作成